

関西中央高等学校 令和元(2019)年度 学校評価報告書

関西中央高等学校
学校評価委員会

1 本校の概要

(1)沿革

昭和39(1964)年4月に、桜井女子高等学校として現在の地(奈良県桜井市桜井502番地)に開校し、53年を迎えた。平成11(1999)年4月に、関西中央高等学校に校名変更を行い、特進コースを男女共学(平成15(2003)年全コースで共学)とした。開校以来、課程、コース等の変遷を経て、平成29(2017)年4月より、普通科特別進学コース・進学コースの2コースとなった。

(2)基本理念、基本方針

基本理念 建学の精神「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」に基づく人格形成
基本方針 「学ぶ力」をのばし、「生きる力」をみがく

2 今年度の重点目標における取組計画、自己評価、改善方策

自己評価の目安 S:大幅達成 A:達成 B:未達成 C:大幅未達成

(1) 重点目標① 生徒が主体的に学び考える力をのばす。

取組計画	自己評価	取組状況・達成状況	今後の改善方策
学習評価の観点を示し、目標を明確にした学習環境を構築する。	A	評価の観点については方向性の検討を続けている。蘭友会館の完成により、ICT学習環境は向上した。2019年入学生よりリクルートスタディサプリを全生徒が活用できるように導入した。	学習環境のハード面の構築は進んできた。その環境を利用して、生徒が主体的に学びたいと思う取り組みを学校として検討していく。
生徒の志望実現のために進路指導部と連携し学力向上のための方策を立案し実施していく。	B	全教員による研究授業、外部講師による進路講演などを継続的に実施し、生徒の学力向上に役立つ方策を実施している。さらに個人別能力評価の活用を進めている。1・2年生への意識付けも含め進路指導部による個人面談を実施している。	

(2) 重点目標② 「創設のこころ」を礎として、豊かな人間性を養い、本校生としての自覚と誇りを持たせる。

取組計画	自己評価	取組状況・達成状況	今後の改善方策
全校朝礼及び週初めのSHRで「創設のこころ」を唱和し、日常生活の中での実践を目指す。「思いやり・マナーアップ運動」を通して、マナーの向上と他を思いやる心を養う。	A	基本的な生活習慣の定着をめざし、継続的に行なうことができている。本校の生きる力の醸成の基本的取り組みとなっている。「思いやり・マナーアップ運動」の一貫として、標語を募集し優秀作品を表彰している。さらに生徒たちが自ら考えた標語を学校の目標として各学年で実践できるように取り組んでいる。	まだ全員の生徒が自然とできるところまではいっていないので、引き続き、根気強く指導を続ける。

(3) 重点目標③ 生徒会活動活発化

取組計画	自己評価	取組状況・達成状況	今後の改善方策
生徒会は、生徒により構成され、その代表者が活動の核となり、全校生徒の望む明るく楽しい学校生活を目指している。また、生徒個人が各々の能力を自主的かつ躍動的に発揮できるように、あらゆる行事を企画立案し、実施することにより将来への希望と自信を培うことを目的とする。	A	いろいろなイベントへ積極的に参加し、学校の代表として、他の生徒の模範となる活動を行なってくれている。さらに、自ら考え、行動できるようになってきている。 また、生徒会活動を通じて、自分自身の不得意を克服している生徒も多くいる。生徒会役員の多くが、自身の夢を実現して卒業している。	生徒会役員のみならず、すべての生徒が同様の動きができるような仕掛けを検討していきたい。

(4) 重点目標④ 生徒ひとりひとりの希望進路を保証するためのサポートを行なう。進路ガイダンスや進路行事を通じて生徒の進路選択を促すとともに、生徒の到達学力および進路希望を把握し、その実現に向けて適切なアドバイスを行なう。

取組計画	自己評価	取組状況・達成状況	今後の改善方策
1年次から3年次までをトータルに捉え、それぞれの学年の適切な時期にキャリアガイダンス、進路ガイダンスを行なう。また、個別の学校説明会や大学・専門学校見学ツアーを実施する中で、ひとりひとりにあった学校説明を行い進路選択の指針を与える。	B	今年度も1年生「分野別ガイダンス」、2年生「学問分野別ミニ講義(出張講義)」、3年生「学校別ガイダンス」を生徒の希望にできるだけ沿う形で実施。学年別の進路講演会において、個々の進路に関しての意識を高めることができた。 また、振り返りのアンケートを実施し今後の取り組みに生かしている。	多様な進路選択の幅に対応できる講演会等の企画を検討したい。

(5) 重点目標⑤ 自分らしさを発揮し、自尊感情を高め、自分も他人も大切だと考え、互いに認め合い支えあいながら共に生きていく社会を実現させる力を培う。

取組計画	自己評価	取組状況・達成状況	今後の改善方策
ほめる指導と共に積極的に参加することにより達成感を感じるような人権教育ホームルームの充実を図り、積極的に参加し、実践できる内容を構築し展開する。	A	「人権HR」においては、担任主体の展開だけでなく生徒が主体的に進行し、意見交流を行う内容も実施したことにより、生徒相互の意識・認識が深まった。 「悩みのアンケート」の継続実施により、自ら声をあげることが苦手な生徒の隠れた悩みの発見に努め、「生徒指導部」と連携をとり、解決の方策を探った。 さらには自尊感情を高める教育に取り組んでいる。	生徒の日常の何気ない「言葉使い」に対しても、敏感に反応して、タイムリーに適切な指導を展開できるように、教職員の意識の共有化をさらに図る。

(6) 重点目標⑥ 規則正しい生活習慣を送ることにより高校生としての基本的な生活リズムを営もうとする目的意識と実践力を身につけさせる。

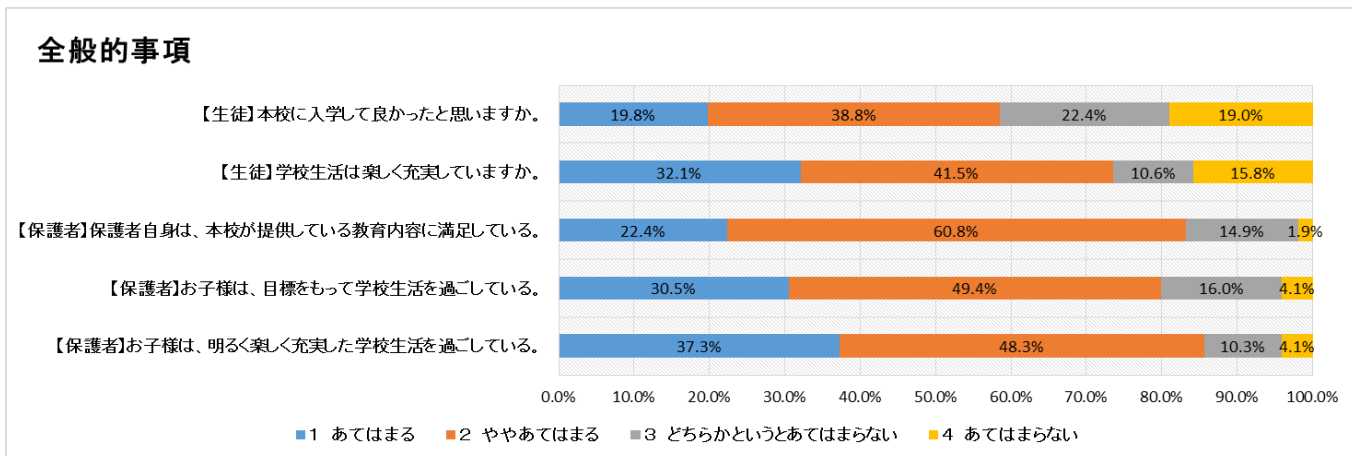
取組計画	自己評価	取組状況・達成状況	今後の改善方策
健康と安全をはかるための予防指導や傷病者の応急処置、健康診断、健康観察及び不登校生徒の対応に活用する。	A	心の健康のニーズを把握しそれに応じるヘルスカウンセリングを大切に心の通う対応を行った。 カウンセリングと保健室(養護教諭)との連携により、気軽に相談できるような取り組みを続けている。	多様な生徒へ対応するため、専門家との連携を図る。

3 アンケートの実施状況について

学校評価委員会において、昨年度より、例年行っている保護者アンケートに加え、保護者アンケートと関連性を持たせた内容で生徒アンケートを実施している。保護者アンケートは、令和元年7月に実施し、生徒アンケートは同10月に実施した。双方の結果を対照させた簡単な分析を以下に示す。

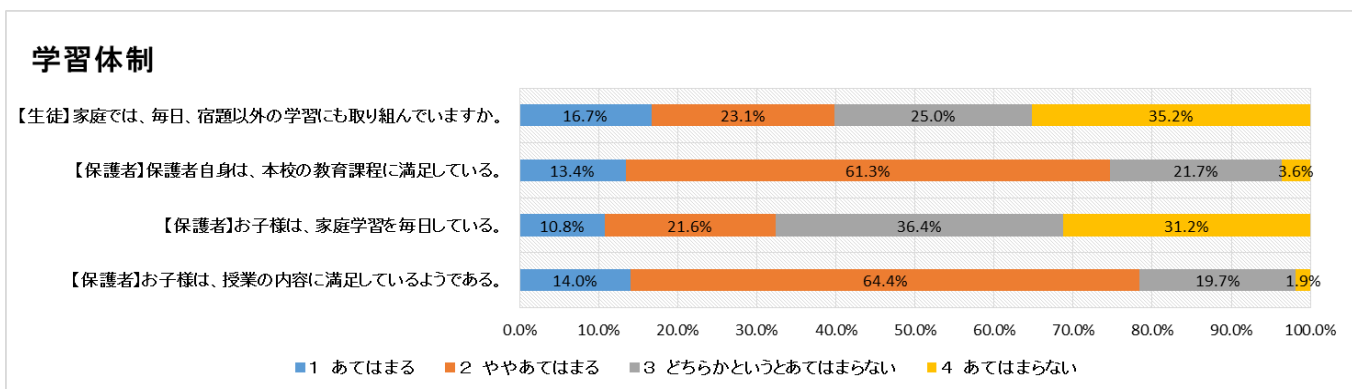
(1) 全般的事項

生徒の約7割は本校の学校生活を充実感を持って過ごしており、9割弱の保護者も生徒の充実感を共有している。また、8割強の保護者は、本校の教育内容に満足している。ただ、全般的にややあてはまるという回答のウエイトが高い。また充実感を持っていない生徒や満足されていない保護者が一定数おられることから更なる改善努力が求められると考える。例年と同様の傾向の回答となった。



(2) 学習体制

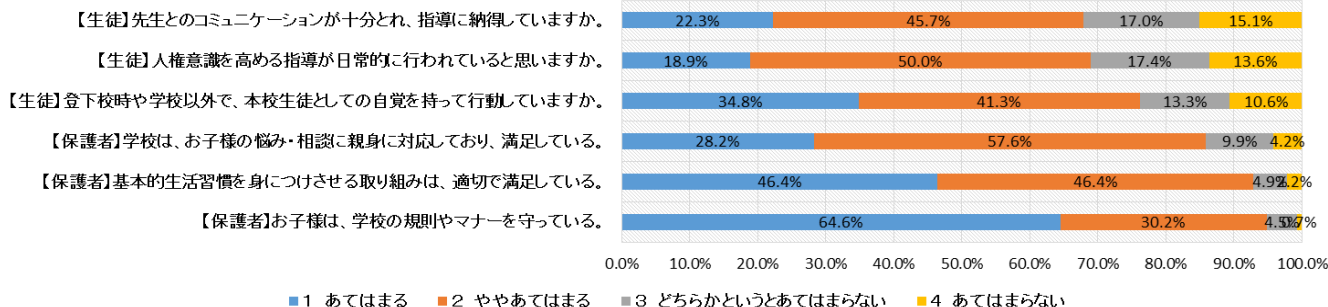
保護者の約8割は生徒が授業内容に満足していると感じている。毎日の家庭学習に関し、毎日取り組んでいると感じている割合が、生徒、保護者ともに若干ではあるが向上している。家庭学習の重要性の理解と、自発的に取り組む姿勢を醸成してきた結果と考える。放課後の本学での取り組みの充実や部活動等課外活動とのバランスを自律的に取れるように指導する等、学ぶ力を伸ばすことへの対応をさらに進める。



(3) 生活指導

生徒の約7割は、教員との良い関係性が保たれており、本校生徒としての自覚を持って行動している。保護者のほとんどは、本校の生徒に基本的な生活習慣を身につけさせる取組みに関し評価しており、生徒が規則・マナーを守っていることを確認している。教員とコミュニケーションが取れていないと感じている生徒が若干増加しており、さらに個別対応を重ねることで改善していく努力が必要である。

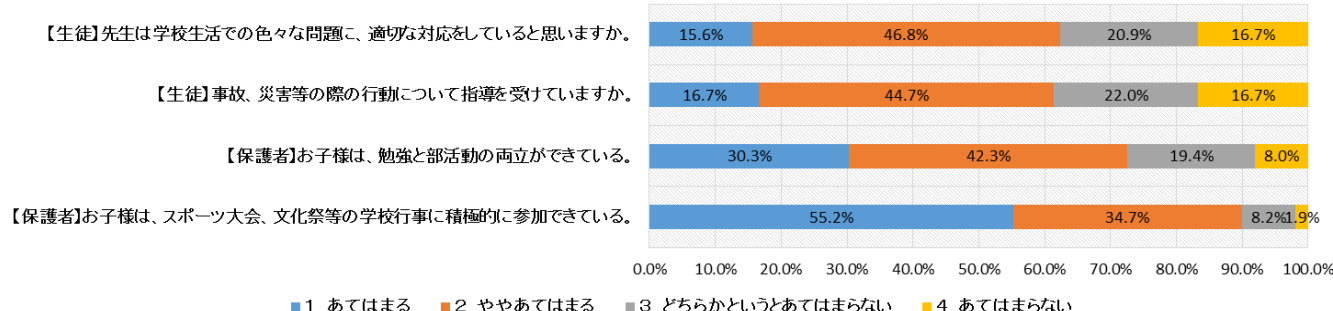
生活指導



(4) 諸活動

生徒の学校への満足感や教員とのコミュニケーションと比較して、教員の適切な対応に関する評価は厳しい。何が適切と評価されるかを検討しながら、生徒が納得できる対応をそれぞれの教職員が意識する。事故・災害対応も、訓練は毎年度実施しているが、もう一歩踏み込んだ指導の必要性が見て取れる。例年に比較して、勉強と部活動が両立できていると感じている保護者の割合が増加した。今年、4月より部活動の方針を全学的に定め、運用した結果と考える。

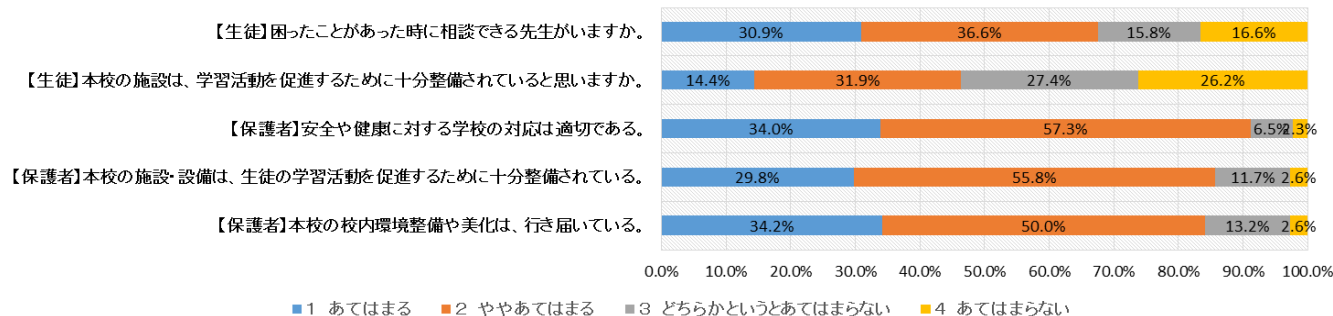
諸活動



(5) 学校環境

生徒の困った時に相談する教員がいないという割合は昨年より改善した。しかし引き続き教員の相談対応に対する意識の向上の必要性を感じる。また本校の学習活動のための施設に関して多くの生徒は不十分と考えているため、施設整備の改善が大きな課題である。

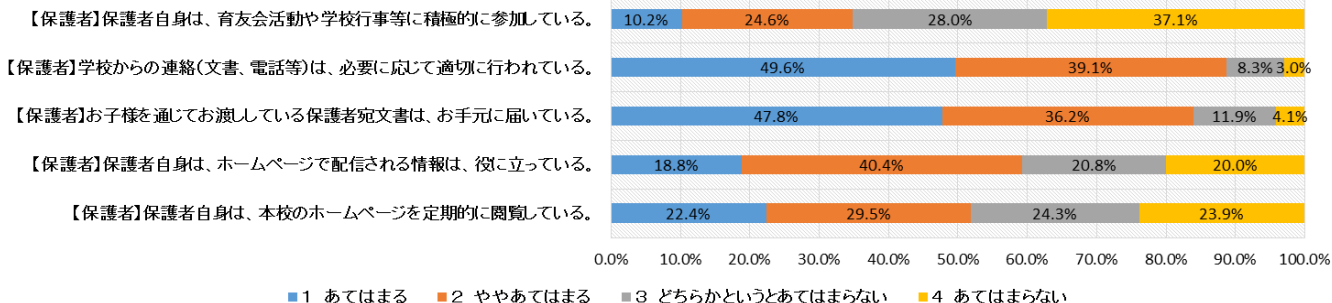
学校環境



(6) 学校との連携

例年通りの傾向となったが、保護者の学校諸活動への参加の困難さが見て取れる。それでも無理をして積極的に協力頂いていることに感謝する。本校のホームページに関する活用度合いはいま一つであるが、視覚情報も含めタイムリーに本校の事を伝達できることのメリットは大きいと考えられるので、保護者だけではなく一般の方々に見て頂ける工夫を引き続き実施していく。

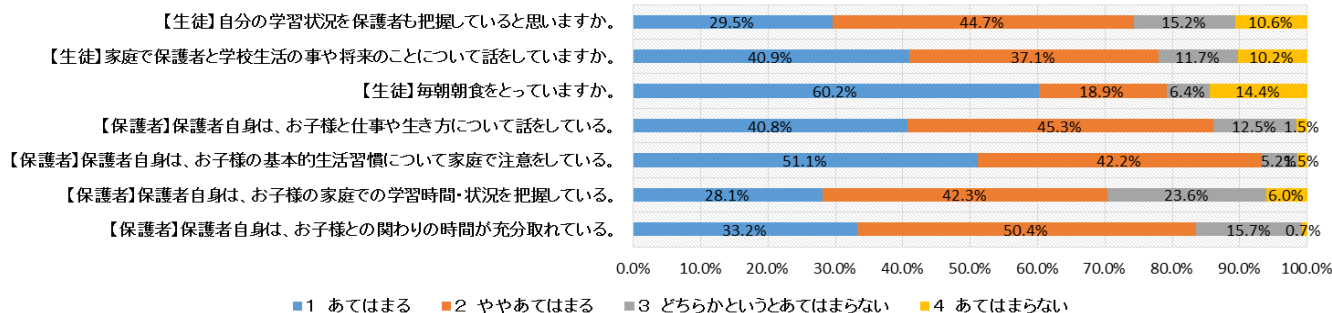
学校との連携



(7) 家庭の状況

例年同様、家庭での生徒と保護者の関係は、おおむね良好であると推察される。

家庭の状況



(8) 全体として

保護者・生徒アンケートの結果を学校運営に反映することが大切であり、その反映した結果を可視化することも今後必要だと考える。貴重な意見から改善した内容を今後は公表していきたい。

4 学校関係者評価委員会からの評価結果について

令和元年12月18日に学校関係者評価委員会が開催され、下記の審議等がされた。

冒頭、文部科学省のガイドラインに沿った「学校評価」について説明がされ、本校の学校評価委員会において決定された今年度の「学校評価」の進め方が説明された。その「学校評価」に「学校関係者評価委員会」が関与する趣旨、関与方法等について説明がされ、出席委員全員で共有された。

その後、校長より、資料4に基づき、現在の本校の取組みに関し、具体的に説明された。

事務局より、資料6.7に基づき、今年度の6項目の重点目標とその目標を設定した方法等が説明され、項目ごとの取組み計画、自己評価、取組状況・達成状況及び今後の改善方針について説明され、合わせて生徒と保護者へのアンケートの集計結果が説明された。その上で評価に関し、意見交換が行われた。

- ・生徒と保護者のアンケート集計結果が報告されたが、単年度の結果だけでなく、経年変化もわかるような資料もあれば良いと思う。
- ・部活動と勉強の両立の保護者アンケートの結果が良くなったことは、今年度より学校としての方針を定めたことがつながっているということには納得できるし、学校として方向性を定めることは良いことだと思う。
- ・入学して良かったかどうかの設問は学年や時期によって大きく変化と思うので、学年別のデータも必要だと思う。
- ・授業内容については、授業アンケートの結果を確認し改善につなげている。
- ・地域のイベントにも積極的に参加いただいている。その際、複数の学校に協力いただいているが、それぞれの学校で特色を感じる。特に部活動に目が行くことが多い。今後も引き続き継続して欲しい。
- ・駅前施設に高校生の自習室ができたが、関西中央高校の生徒さんの活用状況はどうですか。→(校長)本校の生徒はあまり活用していない。学内の施設等を利用して勉強している生徒が多いように感じている。
- ・現在、本町通商店街は通学路になっていないと思うが、地域の活性化のためにも通学路として欲しい。
- ・保護者としては学校よりの連絡について、生徒を介したやり取りだけでなくICTを利用した情報提供などをさらに進めてほしい。
- ・段階的には進めていただいているが、施設の改修工事等(トイレ洋式化等)も是非どんどん進めてほしい。あと清掃活動に力をいれることも大切だと思う。
- ・元高校教員で現大学教員の立場として主観的、客観的な2つの視点からお話すると、多様な生徒に対応するため、教職員、生徒、保護者が一体となってそれぞれに目標を作ること、それぞれの学びを一体的に可視化できるポートフォリオを作り、学びのモチベーションをあげること等が大切だと思う。あと評価を表すアセスメントの語源はラテン語で「座る」との意味もあります。このようにみんなで座って議論することも重要であることを補足します。

以上の意見をまとめて、「学校関係者評価」とすることが承認された。

学校関係者評価委員会委員名簿

北村 雅世 育友会会長
辻 敬三 育友会前会長
萩元満知子 蘭友会(同窓会)会長
小西宗日出 桜井市本町通周辺まちづくり協議会会長
深田 将揮 畿央大学教育学部准教授
植村 豊 学校法人冬木学園 法人事務局長
西川 隆彰 関西中央高等学校 校長

5 校長の意見書

「学ぶ力」「生きる力」を育む特色ある学習指導の取組の一つとして従来行っていた「校内合宿教育」は、一昨年度から「アクティブ・ラーニング実践教育」として、合宿という形式をなくし、全学年が同一日に終日かけて一斉に行うように変更した。また、名称は本校の建学の精神を英語で表現した頭文字をとり、「VIB教育(Virtue, Intelligence, Beauty)」と変更した。この行事は学年ごとのテーマに則り、三段論法や三角ロジック、ディベートなどを行うことで、生徒が主体的・対話的で深い学びに接する機会となっている。また、一部の教員から全ての担任・副担任が関わる体制となったことは意義深く、本校の特色ある取組として継続する。

教員の研究授業は、かつては新任などの若手教員を中心に行っていたが、昨年度からは全ての教員が「アクティブ・ラーニング」を念頭において教科ごとの研究授業を実施している。次年度は教員のスキルアップを更に図るため、各教科主任が中心となって授業の進め方やポイントなどを話し合ったり、模擬試験のデータを基に個々の生徒の学力向上について話し合ったりするなど、教科主任に重きを置いた取組とする。

毎週はじめの朝のSHR(ショートホームルーム)や月一回の全校朝礼での「創設の心の唱和」、「思いやりの心・マナーアップ運動」における標語の募集と校内掲示、登下校時の校門一礼、元気な挨拶運動などの取組を通して、社会人となるための基本的な生活習慣の確立や規範意識の向上を図っている。とわいえ、全ての生徒ができていないわけではないので、根気よく粘り強くこの取組を続ける。

全国模試については特別進学コース生は全員受験している。しかし、進学コース生の受験はほとんどなかったため、一昨年度から進学コースの生徒も積極的に受験するように呼びかけたが受ける生徒は少なかった。次年度からは進学コースにおいても偏差値がはっきり出る「進研模試」を全員受験させ、そのデータを3年間追跡し、個々の生徒の学力レベルを測り進路指導につなげたいと考えている。そのほかにも、学力向上を図るという観点では、英語と数学において習熟度別の授業を行うとともに、英語科においては「スタディサプリ®」というWEB講座を授業に取り入れ、3年間活用することで生徒の学力向上を図る。

更には放課後7、8限目、特別進学コースは「関中塾」という校内塾を、進学コースは「SSP(学習支援計画)」を、そして両コースにかかわる「勉強クラブ」を実施していたが、次年度からは「SSP」と「勉強クラブ」を一つにした「学習支援部(仮称)」をつくり実のあるものにしていきたい。そして、生徒が高校在籍3年間で「漢字検定」、「英語検定」、「数学検定」を3級以上取得できることをめざしたい。行事に関しては、昨年度から体育祭を6月に行い、文化祭も8月下旬に前倒しするなど学校行事を見直し、受験に向けた体制を整えている。

海外への修学旅行の行き先はグアムとなり、今回は3回目であった。前回と異なったのはグアムでの現地姉妹校と交流ができなかったことにある。これは相手校との日程調整がうまくいかなかったことが原因であるが、国を越えた高校生同士の交流は何物にも変えがたいものであり、J・Fケネディ高校とは姉妹校として今後も良好な関係を維持し交流を継続する。

授業改善や生徒理解に役立てることなどを目的として、現在、教員は「自己啓発シート」を年3回作成している。また、生徒による「授業アンケート」は年2回とり、その結果を教員に返し、教員は生徒からのアンケートに基づく改善方を「授業アンケート自己評価シート」に記入している。生徒に対しては「悩みのアンケート」を年2回、「いじめのアンケート」を年1回実施している。更にカウンセラーとの連携が重要と考え、男性と女性のカウンセラーを週2回配置している。女子生徒にとっても相談しやすいとのことで今後も継続する。

建学の精神である「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」に基づく人格形成を図るとともに、生徒の第一希望の進路実現が達成できるよう取組を今後も積極的に進めていきたい。